

## 令和2年度 東京都立翔陽高等学校 学校経営報告

### I 概要

本年度は、昨年度策定された「学校グランドデザイン」を基に、教育課程の編成・見直しを実施している。今後は各教科・科目や単元ごとのルーブリックの作成及び観点別評価の検討を進める必要がある。次年度は評価に関するプロジェクトチームを立ち上げる予定である。

校務分掌では、昨年度の探究プロジェクトチームを母体とした国際探究部を設置した。また、委員会の設置及び構成に関してもさらなる改善を行った。次年度及び新教育課程全面実施の令和4年度に向けての、学校行事や教科・科目の設置、習熟度別授業展開等については、教科主任会及び主幹教諭を構成員とした教育課程委員会において検討を続けている。

学校評価アンケートでの入学満足度の肯定回答率は生徒が83%保護者は86%と高かったが、英語教育、特別支援教育に関する項目では、学校評価アンケートの生徒の肯定回答数はともに54%とあまり高くなく、理解が進んでいないと考えられる。国際交流に関しては、今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため多くの取組が実施できず残念であった。英語教育推進校としての取組とともに、今後の取組の実施方法や周知についてさらなる検討が必要である。学校ホームページの募集対策としての評価は、保護者が52%教員は77%と乖離があり、内容面での工夫が必要である。今年度はホームページリニューアルプロジェクトチームを設置し、改編作業は滞りなく進んだ。次年度からのリニューアル公開に向けて組織的な体制作りを行っている。

### II 今年度の取組目標等に関する自己評価

|                        |  |                                 |
|------------------------|--|---------------------------------|
| <b>1</b><br>学校運営・組織体制  | (1) 全ての教育活動において、計画的・組織的に学校運営を推進する<br>(2) 学習活動と行事・部活動を教育活動の両輪とし、両立が図れるよう指導に当たる<br>(3) 若手教員の支援を推進する。若手教員を対象としたOJTを実施する<br>(4) 体罰根絶に向けた組織的取組を推進するとともに、サービスの厳正を維持する<br>(5) 新学習指導要領を踏まえ、考査問題の統一や習熟度別展開授業等の改善を進める<br>(6) 学力スタンダードの確実な定着を目指し、組織的な取組を行う  | B<br>B<br>A<br>B<br>B<br>B      |
| <b>2</b><br>学習指導       | (1) 思考・判断・表現・創造力等を向上させるため、主体的・対話的な深い学びを実践する<br>(2) 生徒の学習活動の結果や授業評価の分析・検討・共有することにより、授業改善を行う<br>(3) 学習支援アプリ等を活用するなど、家庭学習習慣の定着のための取組を展開する<br>(4) 他校や自校の先生の授業を参観し、それに基づく授業研究や校内研修を実施する<br>(5) 授業改善や新学習指導要領に関する知識・技能の習得に努める   | C<br>B<br>B<br>B<br>C           |
| <b>3</b><br>生活指導       | (1) 遅刻、服装、頭髪、言葉遣いや所作について、指導を行い、後で変容の確認を行う<br>(2) 人権意識と自律意識を高める道徳的指導を全教員が実践し、いじめ未然防止に臨む<br>(3) 都立高校生活指導指針に基づいた生活指導を、集会やHR等で継続的に指導する<br>(4) 遅刻指導対象者及び頭髪指導対象者を減少させる。とくに、後期の指導を強化する<br>(5) 生徒の自己肯定感を高め、変化を見逃さず、生命にかかわる重大事故の防止に取り組む<br>(6) 敷地内の美化環境整備を生徒の保健委員会や環境委員会を中心として推進する<br>(7) 食育指導や教育相談の充実を図り、安全に関する知識を深める指導を展開する | B<br>A<br>B<br>A<br>B<br>A<br>B |
| <b>4</b><br>進路指導       | (1) 「はばたきタイム」の内容改善に努め、キャリア教育の充実を図る<br>(2) 高い志を持たせ、進路実現に向けて、最後まで諦めさせない指導を組織的に実践する<br>(3) 学問調査や上級学校見学等を行うことにより、早い段階での希望進路を確定させる  | B<br>C<br>B                     |
| <b>5</b><br>国際理解教育     | (1) 国際理解教育の推進のため、学校行事や外国の学校（生徒）との交流活動等を実施する<br>(2) 海外修学旅行の成功に向け、準備を進め、生徒の国際理解意識の向上を図る<br>(3) オリンピック・パラリンピック教育を推進し、レガシー構築を行う<br>(4) 英語外部検定試験において、CEFRでB1以上の英語力を身に付けさせる<br>(5) 交流活動や海外修学旅行において互いの文化について交流ができる生徒を育成する   | C<br>C<br>C<br>B<br>C           |
| <b>6</b><br>募集・広報活動    | (1) 学校説明会、学校見学会等を工夫するとともに、中学校・塾訪問等を積極的に実施する<br>(2) 地域の学校との交流及び地域での社会貢献活動に積極的に取り組む。   | A<br>C                          |
| <b>7</b><br>特別支援教育     | (1) 発達障害に関する校内研修を実施し、情報の共有化を図り、組織的な支援体制をつくる<br>(2) 外部機関・SSW・SSCと連携をとりながら生徒の支援を行う。  | B<br>C                          |
| <b>8</b><br>特別活動       | (1) 集団活動を通して望ましい人間関係の構築や自尊感情を育成する指導を実践する<br>(2) 学校行事の内容や体制の改善を図り、達成感や自己肯定感を育む指導を展開する<br>(3) 「切り替えと集中」を指導し、限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせる<br>(4) スポーツ特別強化校として、部活動の活性化を図り、運動能力の向上を図る   | C<br>B<br>B<br>A                |
| <b>9</b><br>施設・経営企画室運営 | (1) 施設設備の安全確保のための校内見回りを関係者が分担して実施する<br>(2) 自律経営推進予算の迅速かつ確実に計画的な執行と適切な管理を推進する   | A<br>A                          |

#### IV 今年度の重点目標及び数値目標 に対する達成度

##### ①【学校運営】

ア 学校グラウンドデザインに基づいた資質・能力を向上させる取組を行う。(新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた、オンラインや対面での授業の工夫を行った。)【B】

イ 探究的な学びや国際理解教育、キャリア教育の推進、豊かな人間性の育成のため、宿泊行事を含めた学校行事に一貫性を持たせるとともに、SDGsの目標解決のための取組を実践する。(新型コロナウイルス感染症対応のため、国際交流や宿泊行事を実施することができなかったが、1・2年次とも探究成果発表会を実施することができた。)【B】

ウ ライフ・ワーク・バランスの観点から、業務の効率化・平滑化を図り、全教職員の在校時間の削減を目指す。(超過勤務45時間超えの人数0を目標としたが、直近月の45時間越えは4名であった。)【C】

エ ホームページへの各分掌・部活動からの情報発信を活発にし、広報活動を充実させる。また、ホームページのリニューアルにも取り組む。(更新回数260以上を目標にしたが、その倍の520回以上の更新を行った。)【A】

オ 中学校及び塾訪問においては、本校の教育内容の周知に努めると同時に、中学生や保護者のニーズ及び中学校の本校に対する評価について情報収集を行い、募集対策や新教育課程に反映させる。(中学校訪問130校以上、学習塾80ヶ所以上を目標としたが、今年度は塾訪問を中心に実施し、塾訪問は122校、学校説明会は888名の参加を得ることができた。)【A】

カ 募集・広報活動の改善を図り、入試倍率の向上に努める。(推薦に基づく選抜1.4倍以上、学力検査に基づく選抜1.2倍以上を目標としたが、推薦2.48倍、学力1.44倍であった。)【A】

##### ②【学習指導】

ア 探究的な学びと「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究を行う。【C】

イ 家庭学習の重要性を説き、その質的・量的向上を促す。また、予習・復習が必要な授業を展開するとともに、教科、年次及び分掌の協力体制を築き、家庭学習習慣の定着のために組織的な取組を展開する。(年次数と同じ時間以上を目標としたが、平均して1年次は平日52分、休日83分、3年次は平日38分、休日55分、3年次は平日86分、休日104分であった。)【C】

ウ 進学指導研究校として、教科主任会を定期的に開催し、教科会において大学入学共通テスト試行調査(プレテスト)等の問題分析を行い、情報の共有化を図り、授業改善を行う。(教科主任会で分析を行うことができたが、10回以上の目標に対して新型コロナウイルス感染症のため5回の開催にとどまった。)【C】

エ 校内研修費を活用し、予備校等の実施する講座や講師を招聘した校内研修などとおして、授業力の向上を図る。【B】

オ 生徒の授業満足度を向上させる。(生徒による授業評価における各教科・科目平均満足度90%以上を目標としたが、83%であった。)【B】

カ ルーブリックや観点別評価の実施に向けて、教科会等で研究及び実践を行う。【C】

##### ③【生活指導・進路指導】

ア 定時始業・終業を厳守するとともに、授業準備や挨拶等授業規律の徹底を計る。(ノーチャイム制ではあるが、定時始業が常態化している。)【A】

イ 生徒のニーズに応じた授業期間中の補習や長期休業中の講習を充実させるとともに、自習室を開放し、校内で勉強に取り組む雰囲気醸成を図る。(各自講習年間3講座以上を目標としたが、新型コロナウイルス感染症対応のため、長期休業日の日程が短くなり、多くの講座数を開設できなかった。始業前や放課後の補講・補習も感染症対策をとりながら実施されている。)【B】

ウ 大学入学共通テスト出願率を向上させる。(出願率85%以上を目標としたが80%にとどまった)【C】

エ 大学入学共通テストにおいて全国平均点を上まわる。(15科目以上を目標としたが9科目となった)【C】

オ 高い志の維持に努め、上・中位層を伸ばし、国公立及び難関私立大学の現役合格者数を増加させる。(国公立、早慶上理計10名以上、GMARCH40名以上を目標としたが、国公立2名、GMARCH35名であった。)【C】

カ 各教科や進路指導部及び担任団との進路検討会等を実施し、保護者・進路指導部・担任で情報を共有しながら三者面談等を実施し、適切な進路指導を行う。(年間面談回数3回以上を実施することができた。)【B】